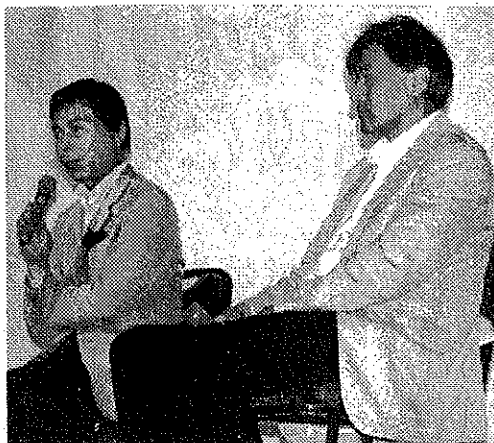


独自路線で前進を

上映とトークショー 夕張映画祭開く



トークショーで話す木村さん(左)と大和田さん

夕張映画祭2010が24日、ホテルニューパロで延べ約百人が参加して開かれ、招待作品3本が上映されたほか、フリープロデューサーら2人によるトークショーやバンド演奏、ボーカリスらのライブが繰り広げられた。

開会式で同映画祭の下田泰也プロデューサーが、1999年に「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」の10周年特別協賛企画として生まれた第1回JCF学生映画祭から教えて今回が通算10回目の映画祭となることなどを説明し、「今回から、学生の枠を越えて『開かれた映画祭』をテーマに、夕張の活性化と若いクリエイターの発掘

・育成などを狙い、次の10年を見すえた映画祭としたい」とあいさつ。引き続き、「水戸市市制施行120周年記念公開作品」の「ピパーカット」が上映された。今を生きる田舎生まれ田舎育ちの若者たちが、農業という新しいフィールドを開拓していく青春ラブスドリーで、この日の上映が道内での初公開。

接拶の中で西尾さんは「私の古里(愛知県)を想い撮影に臨んだ。どうぞ古里を感じてください」と話した。

歌舞伎界のプリンス・尾上菊之助初のアクション映画主演 種森いずみ、宮迫博之、宍戸錠らが出演した「サ・ユード暗号」上映後のトークショーには、吉本興業の全国展開

を進め、常務取締役大阪本社代表を最後に同社を退社し、現在、フリープロデューサーとして多方面で活躍中の木村政雄さん(夕張映画実行委員)と、「サ・ユード」も手掛け、現在は活動の中心を台湾、中国に移して中日韓台の合作映画の企画に取り組んでいる映画プロデューサーの大和田広樹さん(夕張映画実行委員)の二人が出演。

「映画・エンタテイメントコンテンツによる地域の活性化」のテーマで広範囲の話しを開展した中で木村さんは「よき者がこの地を元気に」とす

るのおおがましい。が、この映画祭は違うくくりであることを明確にして主旨を明快に出すことが肝要。来年から夕張では冬と夏の映画祭ができることになる。独自路線で地域の活性化を図り、前進させたい」と強調した。

大和田さんはカンヌ映画祭を例に引き、「ショー」としても素晴らしい。夕張は何をターゲットにして行くのかをしっかりと考えることが重要」と述べた。

下田プロデューサーは「今後は期間限定の映画上映会にとどまらず、年間を通して何を起こせるかを基本に、来年の今頃までに公式プログラムや、様々なコンペティションプログラムを開催したい」と話した。

を前にも植田尚監督と主演女優の西尾舞生さんが舞台挨拶した。西尾さんは、8歳でハリウッド・マジックキャッスルに出演、天才プロマジシャンとして脚光を浴びて以来、数多くのTVやイベントなどに出演したほか、三越劇場で初舞台を踏み、愛川欽也監督作品「黄昏れて初恋」で好演した。TBSのモーニング・アイやテレビ朝日の天使の仮面などにも数多く出演している。